

8. さまざまな熱中症対策の取組事例

事例8. 神奈川県横浜市 南消防団外国人防災指導チームによる多言語での熱中症予防啓発

- 外国人登録人口の多い地域特性を踏まえ、横浜市南消防署では令和3年4月に市内で初めて発足した**南消防団外国人防災指導チーム**と連携して**多言語(日本語、中国語、韓国語、英語の4か国語)**による熱中症予防広報を横浜橋通商店街で行っている。
- 商店街の協力で**横断幕、バナー(広告旗)**を製作。ポスターや放送設備を活用し買い物客や外国籍経営者へ啓発した。空き店舗を活用した休憩所も開設し予防対策を学ぶ動画を放映、**“熱中症は防げる”ことを周知した。**



◀外国人に対する防災指導や災害時における避難誘導などを行うことを目的として、南消防団に「**外国人防災指導チーム**」が発足(令和3年4月)



◀商店街の空き店舗に開設した休憩所では、熱中症予防の啓発動画を視聴してもらうほか、麦茶も振舞った。

キャンペーン当日は、商店街の街頭で多言語(日本語、中国語、韓国語、英語)によるアナウンスを行った。

多言語アナウンスは、南区庁舎内でも夏季期間(6～9月)放送されている。



南消防署員(右)が訪れた人に「**横浜マイボトルスポット***」を説明。マイボトルを持ち歩く「エコロジーの取組」と「熱中症予防のこまめな水分補給」を組み合わせた広報を実施した▶

*横浜マイボトルスポット:
マイボトル等を持参した市民等に対し飲み物を販売し、又は無料で提供する店舗、事業所、施設等



■ 苦労した点

熱中症について、外国籍の方にわかりやすく伝えるための表現を検討した点

■ 工夫した点

熱中症予防はテレビ等でも報道されており、高齢者は聞き飽きていることも多く、発生要因と対策とをセットで伝えたり、エコロジーなど他の取組と絡めて伝えたりして、関心をもたせるようにした点。